

# センター便り

## 不満昇華(消化?)

施設長 渡邊 誠司

(以下は当院職員への言葉です。)

『人間老いやすく学なり難し』という恩師の一人からのことばが、ふと浮かんできました(ググってみると『少年老い易く学成り難し』)。意味は、『若いうちはまだ先があるからと一生懸命になれないが、あつという間に年をとるから心せよ』というのをご存じの通り。

じゃあ、歳をとったら『学』は成らないのか? 『学』とはなんぞや?

私見ですが、『成る』ということばが示すように、『達成するもの』と考えると、自ずと『希望・欲望・欲求⇨希求』というものにたどり着きます。みなさんの『学』は、『楽しく家族と暮らし、職場で働くこと、自分の生活をよくしたいこと』が現実的ではないでしょうか。

ひるがえって、この職場の話。新しく始まる『働き方改革の自己・上長評価』。『何のこっちゃ?』『上長に私の何がわかるの?』と置いていませんか?

毎年出させていただく意向趣

意書には、『不平、不満』と思えることばのオンパレード。

それは、本当は『人に求めたこと』ではなくて、『欲求・希求』であり、『達成したいこと』ではないですか? 『歳をとったから』『こんな地方の小さな施設だから』、はたまた、『いつてもしよつがいかから』『不満』で終わらせていませんか?

やりましょう! 『不満昇華(消化?)』の達成のためにできること。

それを達成した『自分』を評価してください。きつと『他者』(組織、患者さん)のためになっているはず。(究極の承認欲求も満たすはず。)

私は、来年還暦を迎えます。まだまだ、内外で汗をかく覚悟です。皆さんの『学』の『成る』のを手伝わしてください。どこでも、いくつになってもやれることはあるはず。変わるころはあるはず。おっと、若い人は、前のことばの後に続く『一寸の光陰軽んずべからず』ということばも忘れずに。

また、達成のために地方を旅立って大きくなって帰ってくるのも一つの手だよ。

## 遠足に行きました

入所

理学療法士 安田 綾野

ここ2年ほどは新型コロナウイルス感染症の流行により利用者の楽しみの一つである遠足も中止になってしまつことが多くありました。

しかし、今年は感染対策を行いながら限られた時間で行く計画を立てました。写真のグループは「初夏を感じて、海を見ながら楽しく水族館を鑑賞する」を目的に6月10日に伊豆・三津シーパラダイスに行くことが出来ました。

久しぶりの外出ということもあり、みなさんの素敵な表情をたくさん見ることが出来ました。



## 夏はプール!

入所

看護師 飯田 志乃



今年もプールの季節がやってきました。暑い夏はみんなプールで遊びたい!!

しかしコロナ禍：みんなが楽しみにしているプールを、コロナを理由に中止にしたくない!!と策を練り、感染対策はもちろん、安全に楽しくプールに入ることと考え、実施できる事になりました。

しかし、ディスタンスを考慮し、1回のプールは2人ずつ、今夏のプールは1人1回ということになりました。

お風呂とは違う大きなプール。冷たい水にビクツとするも、すぐにプカプカ。普段、筋緊張で硬くなっている体も緩み、笑顔も見られました。

大きなプールに2人は寂しかったけれど、大きく手足を伸ばし、リラックスできたようでした。

限られた時間でしたが、お気に入りの水着を着て、そこで感じた非日常…塩素の匂いも、夏の思い出です。

# 夏祭り

生活支援員 柿島 亜衣

8月7日(土)に夏祭りを行いました。今年も新型コロナウイルス感染症予防対策として、みんなと職員だけの夏祭りとなりました。今年のテーマは『千と千尋の夏祭り』ということでもみんなが大好きなジブリの『千と千尋の神隠し』のキャラクターいっぱいのお会場でした。



夏祭り定番の綿菓子とかき氷は目の前で職員が手作りしました。いい匂いにジューッと見つめるみんな。甘い味にニコニコの表情がとても素敵でした。ボウリングゲームでは千と千尋の神隠しのキャラクターのピンを倒しました。み

んな上手に手を動かしてボールを転がすことができました。夏の思い出のひとつとして楽しんでいただけたでしょうか。



## プールでリラククス

生活支援員 伊藤 希

新型コロナウイルス感染拡大に伴い通所の営業を休止することとなり、短い期間となりましたが、今年度も恒例のプール活動を実施することができました。



活動の中で、プールの場所を足運んだり、水に浮かぶための道具の工夫を重ね、イ

メージ作りを行いました。

水の冷たさや感触を全身で感じ、水の力に身を任せてリラククスをしたり、手足を動かして泳いだりと、それぞれの方法で満喫していました。みんなの笑顔と楽しむ姿を見るのができて本当に良かったです。



## 外出で史跡巡り

生活支援員 皆川 千咲

新型コロナウイルスの感染対策を行いながら、徒歩で行ける近隣の史跡、お店へ出掛けてきました。

戸外の心地よさを感じ、お店の方の協力をいただけて楽しい時間を過ごすことができました。



## 足湯でゆったり

看護師 高橋 幸恵

春の遠足の代替えとして、センター中庭で親子参加の足湯を実施しました。外気を浴びながら、泡のお湯・いい香りのお湯・又ル又ルしたお湯で、楽しみました。



いつでも違う場所でお母さんたちとゆったり足湯に入り笑顔いっぱい時間を過ごしました。

## はじめまして

管理栄養士 鈴木 淳子

7月からご縁がありこちらの施設で働かせていただいています。

管理栄養士として二十年以上、初めて障害児(者)の施設で働くことになり、いろいろ勉強することも多く、四苦八苦しています。まだまだ不慣れなことも多いですが、「食」を通じて、多

くの人たちと関わりを持れば、と思っています。これからどうぞ、よろしくお願いいたします。

## いつもの壁にアクセント

生活支援員 正治 綾子

一年と半年強、施設の中で過ごしているみなさんは外出・外泊もできず、ご家族にももとにも会えない状況でした。そこで、ホール内に明るい雰囲気をつくることで装飾・壁面づくりに力を入れました。今回は、秋を感じられるように、紅葉の壁飾りをみなさんと一緒に作成し、壁面に飾っていきました。



→ 天窓に  
新型コロナウイルスの感染拡大で制限のある日常から、少しずつ解放されつつあります。油断禁物ですが、古い生活様式に戻れま

すように。

